

民主化闘争情報

No. 920

2015年2月24日
発行 日本鉄道労働組合連合会
(JR連合)

JR北海道については、国会やマスコミ報道等で「歪んだ労使関係」の実態が指摘されているのは、既報のとおりである。公共交通機関として安全の確立は最優先に取り組むべきものであるが、最大労組であるJR総連・JR北海道労組に対しては、「自分たちの権利を振りかざす労組」、「公共交通機関を担う資格はない」、「非協力的とも言える対応でアルコール検査の義務化が大幅に遅れた」等と批判的に報じ、JR北海道労組の資質に疑問を投げかけている。

これがJR総連・JR北海道労組の実態！？(vol.2)

自分たちの権利を振りかざす最大労組

JR総連・JR北海道労組に公共交通機関を担う資格はない

衆議院議員の平沢勝栄氏は「JR北海道をめぐる問題というのは、結局のところ労働組合問題」と指摘する。さらに「乗客の安全を守るよりも先に、自分たちの権利を振りかざす最大労組のJR総連・JR北海道労組に、公共交通機関を担う資格はない」と切り捨てる。

最大労組の圧力を物語るのが、運転士に対するアルコール検査の義務化を巡る問題だ。最大労組が一部社員に配布した文書には、「検査は任意でしかない」と非協力的な文言が並ぶ。会社側の内部文書も「強制は絶対に行ってはならない」と明記され、義務化は大幅に遅れた。(テレビ朝日系「ゆがんだレール JR北海道の憂鬱」)

JR北海道をめぐる問題というのは、結局のところ労働組合問題なんです。乗客の安全を守るよりも先に、自分たちの権利を振りかざす最大労組のJR北海道労組に、公共交通機関を担う資格はない。

典型的なのが、乗務員へのアルコール検査だ。JR各社は乗務前の検査を義務づけているのに、JR北海道だけ「原則実施」という形でしか検査できていなかった。国会で私に追及される2日前になって、慌てて全員に検査を義務づけるというお粗末さです。組合が反対するからずっと義務化できていなかった。(衆議院議員 平沢勝栄氏)

石勝線脱線炎上事故以降、相次ぐトラブルが発生するなど、安全問題が焦眉の課題となっているJR北海道に対して、JR連合・JR北労組は、アルコール検査を完全実施するべきと主張してきた。ようやく義務化されたが、JR北海道労組の対応に有識者らが資質を含めて疑問を投げかけている。

**良識あるJR総連・JR北海道労組の組合員の皆さん
JR北海道の真の改革にむけてJR連合に結集しよう！**